

★学校の教育目標	★重点計画の概要
★目指す学校像(ビジョン)	令和7年度は、第4次日野市学校教育基本構想を受け、具体的には①児童の心を耕す道徳教育と道徳科の学習の充実 ②異学年や異学級の交流活動を充実させ、自他のよさに気づき、自己肯定感を育む活動の充実 ③児童が主体的に考え活動する機会や場を工夫し、新たなことにチャレンジできるようにすることに取り組む。「安心できる学校プロジェクトについて、学校が児童にとって安心な場であり、個々のチャレンジを支え、応援する場であることを目指す。
【目指す児童像】	
【目指す学校像】	
【目指す教師像】	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	児童自ら課題を見付け、協働して学びを深め、課題を解決していく「一人一人を大切にしながら多様な学び」の実践	他者対話したり協働したりする道徳科の授業を充実する。	毎月校内研究日を設定し、各学年が研究授業を行うことを通して、「考え、議論する道徳」の授業に取り組む。 また、研究授業後の協議会を充実させ、授業改善に取り組む。	4 具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	4 実施状況について、90%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	4 高評価が得られているので達成している。 ・考えて議論するということは子供のうちに学ぶことでより深く身に付く。 ・道徳教育を通して協働することの大切さを学んでほしい。 ・「5つのやくそく」やひのいちスタンダードを周知させ充実した生活が送れるよう取り組んでいる。 ・97%の保護者が肯定的。道徳教育の充実を感じる。	3	・全学級担任が研究授業に取り組み、協議会の質も向上した。保護者、学校評議員からも肯定的な評価を得られているので、引き続き、さらに考え議論する道徳の授業の改善に努めていく。	
			学力調査等のデータから、個々の児童の課題を明らかにするとともに、学習形態の工夫やタブレットPC等の活用、児童が考えたことをアウトプットし合う主体的な学習の充実に取り組む	4 具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	4 実施状況について、90%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	4 高評価を得ているが、自分の悩みを相談することについて、児童の意見が「あてはまる」から「あてはまらない」まで分かれている。児童にとって大人に相談するのは難しい事だと考えられるので、その受け入れについて「個に応じた指導」の工夫が必要。 ・ICTの活用は、児童自ら考えることと実践することについてよく取り組んでいる。 ・体育や図工でも端末を利用し、個々の課題解決に取り組んでいる。 ・安心できる居場所作りにも全ての教職員が取り組んでいる。 ・自分の成功体験を積み重ね、自信をもって前に進む力がついていくようにしてほしい。			・学力調査等から、算数については個々の児童の課題が明確になった。 ・個に応じた指導の工夫として、ICT端末を使用したことは、有効であったと考える。 ・「わかった」「できた」という経験を積み重ねられるように、個に応じた指導を重ねていく。
みんなの多様な学びと生かす教育の実践	自他のよさに気づき、それを生かす教育の実践	全ての児童が安心して生活できる環境を整備し、配慮を要する児童一人一人に応じた支援を充実する。	ステップ教室やふらっとルームと在籍学級との連携を図り、組織的な支援の充実に取り組む。また、さくら組と通常学級との継続した連携やさくら組における個に応じた指導の充実に取り組む。	4 具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	4 実施状況について、90%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	・教職員の熱心な取り組みや地域住民の熱心な協力を得ている一小的取り組みは高評価に値する。 ・様々な児童がいて個々に配慮することは大変だと思います。 ・多様な学びの中でお互いに、個を尊重する心を育ててほしい。 ・全校でインクルーシブ教育に取り組み、自他のよさに気づきそれを生かす教育がなされている。 ・ステップ教室やふらっとルームとの連携の具体的な方法や今後の方向性を教えてほしい。	3	・特別支援教室や特別支援学級の教育活動や校内別室登校支援等について、保護者・地域の方により理解をしていただけるよう情報発信に努める。 ・今後も、互いに認め合い、自他のよさに気付かせるとともに、一人一人を大切に、多様性や、個に応じた支援について充実を図っていく。	
			児童が自らの学びを振り返り、「できた」「わかった」「もっとやりたい」を感じる授業づくりをする。	4 具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	4 実施状況について、90%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	・限りなく3に近いと聞いている。おおむね目標は達成していると思われる。 ・不自由なく学校生活が送れるような配慮がされていると感じている。 ・SNS関係の指導は今後大切になってくる。 ・今後も能力にかかわらず教育の質の向上に取り組んでほしい。 ・行事や授業においても、さくら組と共に取り組む姿勢は、子供たちにとって刺激的になるので良い活動である。 ・学ぶことの楽しさが学習時間以外の方にも伝わると良い。 ・取り組みを頑張っているのに、もったいない。次年度はこの差がなくなることを期待する。			・児童が「わかった」「できた」「もっとやりたい」と思うような学びの楽しさを実感できる授業を目指して、引き続き改善に授業改善委取り組む。 ・すべての児童にとって分かりやすいユニバーサルデザインの視点による環境づくりや授業づくりに努めているが、児童や保護者に伝わっていないところがあった。改善に努めていく。
社会と未来に関心、みんなで作る	つながりを大切に、児童が主体的に取り組む教育活動の実践	人とつながるよさを実感し、自己肯定感を育む活動を充実する。	たてわり班活動や異年齢の交流活動を定期的に行い、児童が異年齢で遊んだり活動したりするよさに気付いたり、自ら活動を充実させたりできるよう指導・支援に取り組む。	4 具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	4 実施状況について、90%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	・「人とつながる」ことで自己肯定感を育む教育活動の成果が表れている。 ・我が子から他学年のお子様のお話を聞くのでたてわり班や行事を通じた交流は図れている。 ・たでの関係で気付くこともたくさんある。 ・行事を通して、上下関係がしっかりと身についている。 ・下級生が受け身にならないように、一人一人が主体的に参加できるように、指導してほしい。 ・放課後の子供たちの様子を見ている自分下の学年の子に気を付けてあげたりちょっとした言葉かけをししたりしている。思いやりは、大人が気付いたときに褒めてあげることも大切。	3	・異年齢交流を通して、心を育む活動を実践することができた。 ・たてわり班活動では、低学年や中学年等にも自分の役割を意識させ、交流活動を行うことができています。 ・引き続き、たてわり班活動や交流活動に取組み、内容の充実を図っていく。	
			地域の施設や人材を活用した学習を全学年で行い、地域への愛着を育む活動に取り組む。また、近隣の幼稚園や保育園、中学校と連携し、学びの連続性や円滑な接続を意識して活動に取り組む。	4 具体的方策に教員の100%が取り組んだ。	4 実施状況について、90%の保護者・児童から肯定的な評価を得た。	・教職員の「図書館の資料や空間を活用した探究学習や学校図書館の活用」が分かれている。今後、日野市生涯学習部門としても協力できることがあるか検討したい。 ・一小周辺は、様々な地域団体、施設、幼保、中学校が存在しており、連携できていると感じる。 ・小学校を地域のコミュニティの中心的存在になることを要望したい。育成会、自治会、市の行事でさらなる参加も求められる。 ・学校生活をはじめ、日常生活は小さい単体で動いているのではないということに気付いてもらいたい。 ・毎年、出前授業など配慮してもらっている。 ・どんとん施設や人材を活用して地域に対する興味と愛着を育ててほしい。 ・一中の吹奏楽部が演奏しに来るので交流を実感した。お祭りでも中学生がお手伝いをしていて身近に感じた。			・地域の人材や施設を活用した学習に計画的に取り組んでいる。地域の教育的資源を、引き続き活用して子供たちの地域に対する愛着を深めていく。 ・育成会、自治会、市の行事等について児童や保護者へホームページを活用するなどして広報に努め、興味関心をもてるようにする。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。